

新刊紹介

村田正志氏著 証榊葉記

村田博士は多年東大史料編纂所で大日本史料の南北朝時代の編纂に従事され、前に「南北朝史論」を世に問われたが今度本書を公刊された。榊葉記は伏見宮第三代貞成親王（後崇光太上天皇）が、その御子である後花園天皇の御覧に入れるため、悲運だつた同宮家及び御領の変遷、当時の公武関係、後南朝等について簡明に記述されたものである。

本書は先ず成立・内容・諸本（二系統ありと提示）・文献等に分けて詳細に解題し、次に本文の証註には三条西本（博士所蔵）を底本とし、全文を六十九段に分けて諸本にて校合した上、前後関係の認められる三種の自筆草稿本（当部所蔵伏見宮本）の文を列載し（親王の推敵の迹を知り得る）、次に註解を加えている。即ち語句を解釈し、更に当時の記録等を博引傍証して史実を説明している。なお附録として皇室及び諸氏の系図（著者作成）、管絃諸道相承系図、御領文書并御領目録を載せ、終りに年表、索引を附し誠に懇切な構成である。本書の特色は従来の誤字誤読を正したのは勿論史実の説明が委曲を尽している事であつて、本書の詳細な解説を以て始めて榊葉記の豊富な内容を知り得るのであり、同書は実に博士を俟つて史書としての真価を発揮したものと云い得よう。こゝに博士の努力に敬意を表するものである。（宝文館刊行一五〇〇円A5四二四頁図版八点）

（中村一郎記）